

事業コード	0070301	政策コード	03	政策名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略						
事業名	森林学習交流館緊急整備事業	施策コード	07	施策名	地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり						
		指標コード	03	施策目標(指標)名	森林の多面的機能の高度発揮						
部局名	農林水産部	課室名	森林整備課	班名	調整・担い手班	(tel)	1750	担当課長名	三森道哉	担当者名	三浦佑介
評価対象事業の内容											
1－1．事業実施の背景（施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか）				5．前回評価における指摘事項等							
新型コロナウイルスの感染防止を図るため、森林学習交流館の利用者受入環境を早急に整備する必要があった。また、看板や什器が老朽化し、コロナ禍後の受入態勢が十分とは言えない状況にあったことから、感染症拡大防止のため木製パーティションを整備するとともに、老朽化した看板の改修や什器の整備を行うこととし、併せて整備する什器については、展示効果を期待して県産木製品を活用し、木材利用の需要喚起を図ることとした。				①指摘事項							
				②指摘事項への対応							
1－2．外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点				6．事業の内容							
新型コロナウイルス感染症への感染を防止するための木製パーティションの導入により、森林学習交流館におけるクラスターの発生が無く、安定して施設の運営・管理を行うことができている。また、導入した什器等をきっかけに施設利用者の木材利用意欲の向上が期待できることから、当該事業による効果があったと推測される。しかし、新型コロナウイルス感染症が終息しておらず予断を許さない状況であることから、引き続き感染防止の対策に努めていく必要がある。また、森林学習交流館が建設から25年経過しており、老朽化が著しい箇所が多数あることから、管理上早急に対策が必要な部分の有無について引き続き確認していく必要がある。				①事業概要及び推進状況							
				01 森林学習交流館緊急整備事業（事業概要）木製パーティションの設置、木製テーブル及び椅子の整備、多言語対応木製看板の設置を行う。							
2．住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの)				②事業費等							
①満足度を把握した対象 ■ 受益者 □ 一般県民（時期： R03 年 03 月）				単位（千円）							
②満足度の把握方法											
□ アンケート調査 □ 各種委員会及び審議会 ■ ヒアリング □ インターネット											
□ その他の手法（具体的に）											
③満足度の状況											
新型コロナウイルス感染症への感染防止のための利用者受入環境を整備することができた。また、展示効果の高い県産木製品の什器等を導入したことにより、施設利用者から好評を得ていることから、利用者に対するPRと木材需要喚起が図られた。											
3．事業目的（どういう状態にしたかったのか）											
新型コロナウイルス感染症への感染リスクを避けた施設利用に対応した受入態勢が整備されるほか、導入した什器等をきっかけに利用者の木材利用意欲が向上する。											
4．目的達成のための方法											
①事業の実施主体											
県											
②事業の対象者・団体											
県民等											
③達成のための手段											
・ 木製パーティションの設置 ・ 木製テーブル及び椅子の整備 ・ 多言語対応木製看板の設置											
				③当初計画及び最終の事業費比較							
				最終事業費／当初計画事業費 =(0.86)							

7. 事業の効果及び課題の改善状況 当事業を実施した結果、新型コロナウイルス感染症への感染リスクを避けた施設利用に対応した受入態勢が整備されたほか、展示効果の高い県産木製品の什器等を導入したことにより、施設利用者へのPRと木材需要喚起が図られたと推測されることから、事業の効果があったものと判断される。										所管課の評価		
8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み										評価結果		
指標Ⅰ	指標名	森林学習交流館における新型コロナウイルス感染症クラスター発生数							指標の種類	有効性の観点	住民満足度の状況 ●a ○b ○c 【b又はcの場合の分析】 事業の効果 適用の可否 ● 可 ○ 不可 ●a 達成率100%以上 ○b 達成率80%以上100%未満 ○c 達成率80%未満 【b又はcの場合の理由】	
	指標式	秋田県森林学習交流館において、新型コロナウイルス感染症の患者が複数発生し、保健所等からクラスターの発生と認定された回数							●成果指標 ○業績指標			
	①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ● 非該当											
	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体			
	目標a	0	0	0	0	0	0	0	0			
	実績b	0	0	0	0	0	0	0	0			
	b/a								0%			
	②データ等の出典		森林整備課調べ									
	③把握する時期 ● 当該年度中 03月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月											
	指標Ⅱ	指標名										指標の種類
指標式									○成果指標 ○業績指標			
①年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当												
指標		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体			
目標a		0	0	0	0	0	0	0				
実績b		0	0	0	0	0	0	0				
a/b									0%			
②データ等の出典												
③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月												
◎指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法										総合評価 ●A（妥当性が高い） ○B（概ね妥当である） ○C（妥当性が低い） ウィズコロナにおいて施設が営業を続けるため、感染防止のための利用者受入環境を整備したことにより、安定して施設の運営・管理を行うことができている。また、老朽化により早急な更新が必要な什器等の設置にあたっては、展示効果の高い県産木製品の導入により利用者の木材利用意欲の向上が図られている。感染防止対策への支援を求める声があるなどニーズに基づいた事業であり、必要性や効果は高いものと判断できる。		
①指標を設定することが出来なかった理由												
②成果（見込まれる効果）												
										評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)		
										政策評価委員会意見		

終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

(1) 各評価項目の判定基準

観 点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点) B:有効性はある (1～3点) C:有効性は低い (0点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	2		1次 2次	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
	計		4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	2		A:効率性は高い (2点) B:効率性はある (1点) C:効率性は低い (0点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0			1次 2次	
	計		2	2		A	

(注) 事業経済性の算定式

$$\left(\frac{\text{事業終了後の効果} - \text{最終事業費}}{\text{当初計画時の効果} - \text{当初計画時事業費}} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		